

（仮称）中央部防災公園の基本設計について

1. 基本設計にあたっての考え方

- ①日常時にも災害時にも、常に様々な人々にとっての「心の拠り所」となる場所の実現を図る。
- ②オープンスペースの基幹空間となる都市公園は、事業者が整備する公共空地とともに、「東京の新たな活動の拠点」のひとつとして、相応しいにぎわい・憩いと環境が調和した空間を目指す。
- ③本公園への導入機能は、既存の公園や今後新規整備予定の公園等と連携や機能分担を図られるよう計画する。（参考資料－1）
- ④公園と事業者が整備する公共空地等が適切な機能分担と景観上の一体性を保ちながら、連続的な空間となるように計画する。

2. 基本設計概要

(1)所在地及び面積 中野区中野四丁目13番 約1.5ha

(2)基本設計図（別紙－1、2）

(3)概要

①異なった性格を持つ4つのゾーンを整備。

- ・広場空間(大)ゾーン：開放感のある多目的広場を配置し、多くの人が自然とあつまるにぎわいと憩いの空間を創出する。
- ・広場空間(小)ゾーン：高さ1.5m程度まで土を盛り、大地の造形空間を創出する。
- ・水景広場ゾーン：防災用井戸水を利用したカナルと水上ステージを配置し、水遊びや水景施設を生かしたイベントなどができる空間を創出する。
- ・林間空間ゾーン：既存樹木、移植樹木などを活用し、冬場の防風や外部からの見通しなどを意識した空間を創出する。

②管理棟

日常の維持管理やイベントなどにも利用できる施設とし、トイレ・防災倉庫を併設する。屋根部分には太陽発電設備を設置し、防災井戸用の電源などに利用するなど環境に配慮した構造とする。

③防災施設

東京都広域避難場所に位置づけられている「中野区役所一帯」の中核となる安全性の高い避難空間として、一時避難者のために必要な防災施設を整備する。また、周辺の事業者と役割分担を行い、災害時にはお互いの協力関係を調整していく。

《公園に設置する防災施設》

- ・災害時にも利用できるトイレ
- ・マンホールトイレ
- ・防災用井戸
- ・防災倉庫(非常用電源他)
- ・非常用照明(太陽光発電、蓄電池付)

3. これまでの経緯

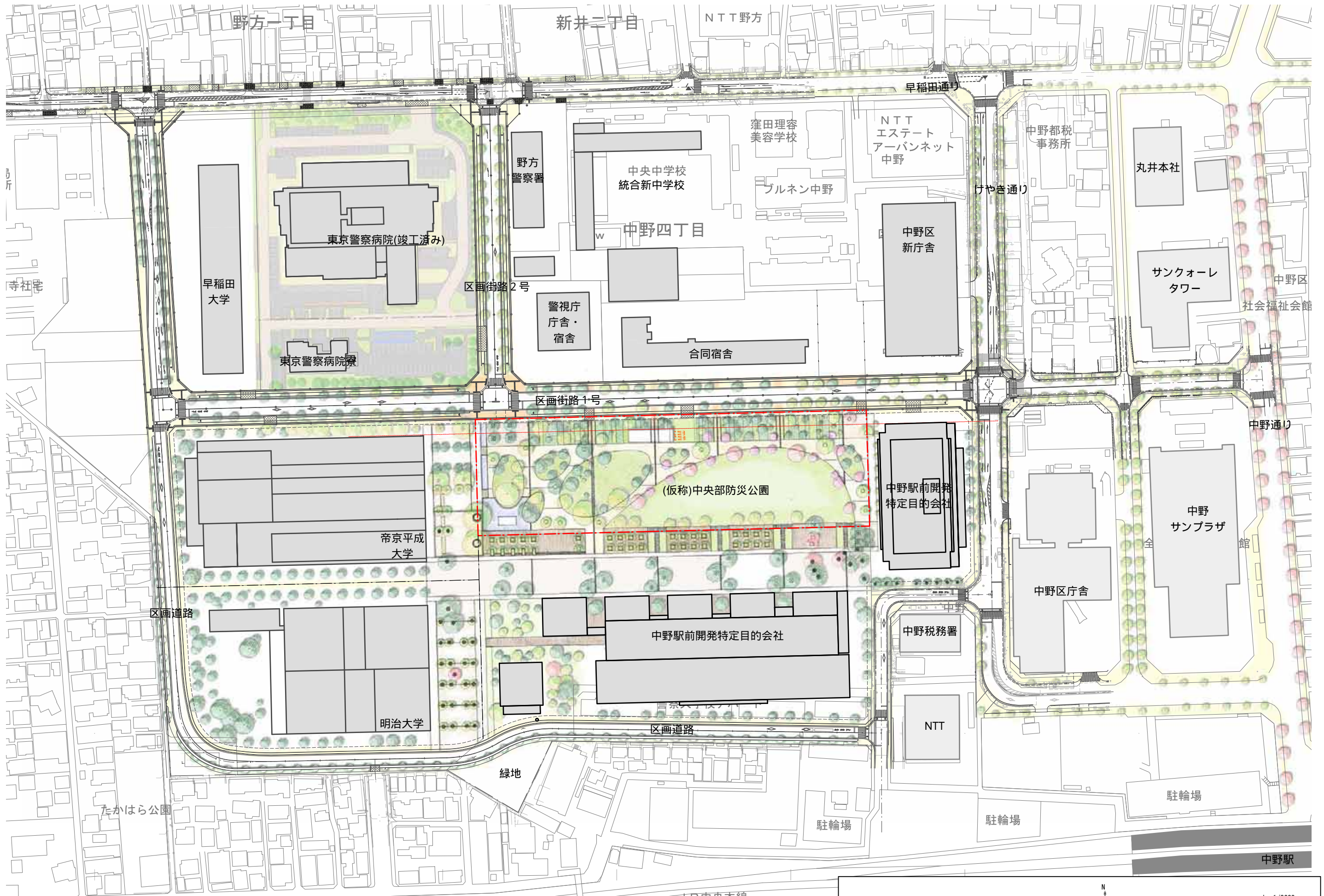
- 平成19年4月6日 都市計画公園決定
第3・3・109号中野中央公園 近隣公園 約1.5ha
- 平成20年3月4日 都市計画公園事業認可
- 平成21年6月 (仮称)中央部防災公園基本計画策定(参考資料-2、3)

4. 今後の予定

- 平成21年11月～平成22年3月 実施設計
- 平成22～23年度 整備工事

以上

警察大学校等跡地地区全体図



※但し、民有地の敷地内は変更の可能性があり、今後とも調整していく。

scale=1/2000
0 10 20 30 40 50 100 (m)

(仮称)中央部防災公園基本設計平面図



但し、民有地の敷地内は変更の可能性があります、今後とも調整していく。